

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	”自然に寄り添い心からの笑顔を”を事業所の理念にかかげ、利用者の目線で支援することを心がける。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	職員と理念を共有し自然なときの流れを意識し、入所者とゆっくりとした時間を持つようにしている。	○
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	施設から地域へのアクセスに努める、月一回の”こもれば新聞”を地域に配布、利用者家族へも送付している。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩、買い物時の地域の方からの声掛けが増えてきた。月一度の”茶話会”を計画し近隣の方々に気軽に立ち寄って頂ける時間をつくるようにしている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	施設長は自治会の行事や会議に積極的に参加し、施設側からの啓発活動をしている。地域の保育園児との交流や、尺八のボランティア演奏などをしていただいている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	年一度の施設行事”さんさん祭”に地域の方々を迎え、認知症についての講演などの時間をつくる。施設長は近隣の独居の高齢者への声掛けに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年に一度の自己評価書の作成は基本に立ち返る良い機会と思う。重要項目は職員会議や、運営推進会議などで再確認し取り組みを検討し改善に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度も偶数月に開催をし施設のマニュアルの作成への助言や、テーマに沿って掘り下げた話し合いをしている。月一度の”茶話会”もこの会からアドバイスをいただいた。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の市担当者に多方面からの助言をいただき、連携をとっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は研修センターの研修に参加し、職員会で他の職員と研修内容を共有している。21年4月に益田・鹿足圏域の成年後見センターが立ち上がる。施設長は設立準備会に参加している。施設利用者様の家族様にも声掛けし、講演などに参加していただいた。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年度も虐待防止研修に参加し、職員会議の時に他の職員と研修内容の共有に努め、現場のケアの再点検をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の入念な面接はもちろん、入所契約時に十分な時間をとって重要事項の説明をしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情ボックスを玄関に設けている。第三者委員会の組織立てをし、外部からの意見や苦情の受け入れの窓口となっている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者様の日々の状態は記録をとり、気になる状態のある時は逐一家族と連絡をとるようにしている。利用者様の介護記録は家族へも開示している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会を開き家族からの意見や質問に答えられる機会を設けている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の職員会議のとき日頃の思いを提案できる機会を設け、職員の個々の才能を現場で発揮できる雰囲気づくりに努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	夜勤のシフトが安定していると昼間の流れも良く、利用者の緊急状況に柔軟に対応できるようパート職員の勤務形態に余裕を持たせている。職員に介護疲れが出ないようなシフト組に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所後2年近くになるが職員移動はデイとホームの正職を交代させただけで、昼間の職員の離職者も開所以降一人だけである。今年度は離職者なし。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>今年度に入り、介護研修センターの研修への参加に努め少しマンネリ化していた介護への悩みの解消策にもなっている。初心に帰る意味で20年の12月に施設内の全体職員研修を行った。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホームのホーム長はネットワーク会議に参加。施設長は益田圏域のグループホーム会議(月1回)に参加し、管理者の悩みを共有し意見交換の場をもっている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>認知症の介護独自のストレスは日々あるが、職員の勤務シフトで介護ストレスがたまらないように努めている。その分現場に支障が起きぬよう、申し送りの時間をしっかりとるようにしている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員のいい面を引き出すように努め、得意な分野には力を出し切ってもらおう。管理者は悩みを解決できる声掛けに努めている。</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前に希望があれば体験入所をしていただき、ご家族とも入念な面接を行い本人の生活歴を十分把握し、自然なケアに役立てるようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所時に利用者様に対するご家族の思いをしっかりと聞き、ケアプランに組み込むことに努める。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時は施設に馴染んでもらう事が先決だが、利用者様に対する介助は個別対応に心がける。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に職員には利用者様の生活歴はもちろん、趣味や好みを把握してもらい入所時のご家族の思いも十分理解した上で馴染みの関係になり、“心の声”を聞きだせるよう努める。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者様は人生の先輩であることを忘れず、できること、できないことを見極め、個々に応じた家事や作業をすることにより、残存する能力を引き出せるような場面づくりに努める。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員の介助で解決できない場面では、ご家族の協力を得られるよう日頃よりお願いをして、協力も得ている。面会も頻繁にあり、ご家族との連絡は密にとるようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の利用者様に対する思いを尊重し、自分の家へ(独居だった方)連れて帰ったり、ご家族との外食・外出。利用者様からは暑中見舞いや年賀状など、節目節目で家族とのつながりを意識づけるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の自宅の近隣の方や友達の来訪も快く受ける。利用者様が良い笑顔を見せられる一時となっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	施設で2年近く一緒にいると名前はわからないが”この人はよーしとる”とか、元気の無い人の背中をなでたり利用者様同士も馴染みの関係ができてきた。こもればの何よりの自慢は全員が輪になって食事がとれるということだ。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	この一年他施設への移動は一件もないが利用者様が時には家族を交えて元気で自然に時を過ごせる施設でありたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声掛けや介助も個別対応になってきているが、思いや希望の表現が困難な利用者様の普段の会話・表情などから思いに気づくよう努力している。利用者様の目線で傾聴することに努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所して2年近くになると利用者様の個性を十分理解できていると勘違いしがちである。初心に帰り個々の生活歴を再確認してみると新しい発見があったりする。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者様一人一人のその日の心身状況を把握し、型にはめるのではなく感情面が激しい日には声掛けより、非言語的コミュニケーションをとったり、本人の想いのままに過ごして頂くようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の想いを聞きその上で残存能力を活かせるプラン作成に努めている。携わる全ての職員の意見をまとめ集約したモニタリングを家族に送付している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のモニタリング時に変化がある場合は状況に応じた計画を変更している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の中で、情報を職員が共有し重要部分は赤線をひいたり、連絡ノートで周知徹底をしている。各利用者様のケアプランについての記述を心掛ける様にしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	広い庭の活用は多く、隣接のデイサービスの利用者様と一緒にお茶を飲んだり、気持ちの良い季節には朝・夕芝の上で運動を兼ねた散歩をしてもらっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域振興センターや地区の民生委員にも多大な協力を得ている。地区で文化活動をしている方々のボランティア訪問も多々うけている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	近くの美容院に出張カットをお願いしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター主催の集会にも積極的に参加している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設協力医をかかりつけ医とした利用者様は、ご家族の負担軽減のため、月一度の往診日に受診している。入所前のかかりつけ医を継続している利用者様は、必要時には往診依頼に応じて頂いている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入所後も継続して専門医を受診されている利用者様が2名おられる。施設から現状の情報提供をご家族を通じてさせて頂いている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	バイタル時に異常が出たときや緊急を要する場合、隣接通所施設の看護職員に相談し、助言をもらったり、看護職員からかかりつけ医に相談してもらい指示を仰ぐようにしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合はこまめに病院に出向き、本人の状況を把握し、救急外来をもつ地元の二ヶ所の病院の相談員(ソーシャルワーカー)と万が一の時の様々なケースを想定し、迅速に連携が取れるようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けては家族会の開催時に入念な話し合いをかさねていきたいし、この先職員は終末期に対する勉強会を重ねる必要がある。	○	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	2年近くになるが看取りはまだ一件もない。経過の様子にもよるが終末期に向けて協力医・かかりつけ医と職員との連携体制を構築していきたいと思う。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	医療機関の相談員(ソーシャルワーカー)と情報交換し、ご家族・利用者様にとって最適な方法がとれるように努める。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に気をつけた対応を求められる域だと思う。言葉がけについては虐待に通じるところもあり、注意している。職員に徹底していく必要がある。	○	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の訴えを読み取ると共に、答えやすいような問いかけをし、過剰なケアや押し付け(命令口調)は禁物で、利用者様の自立度を念頭においた支援に努める。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時として職員の意向が優先すると日々の流れが画一化してしまう傾向にある。”生活の場”として、最低限していただく決まりごと、個々のペースでできる利用者にはしていただいている。	○	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	カット・パーマ・ヘアカラー等、希望に応じて入所前からのなじみの美容院などに行かれている利用者様もいる。その日身に付ける服も出来る人は自分で選んで着てもらっている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の能力にあった食事の用意に参加してもらっているが、入所時からいうとできる利用者様が少なくなってきた。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食べられないものに対する代替品の準備(生魚等)、おやつや飲み物も声掛けをして、利用者様の希望を取り入れることに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	介護する側の声掛けや誘導で排泄パターンをつかみ、紙パンツから布パンツに切り替えた利用者様もいる。失禁の少ない人の布パンツへの切替に努力したい。トイレが居室外にあることは利用者様の動きが見え、排泄介助に幸いしていると思う。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日制限なく行っている。介護度が上がり、強く入浴拒否をされる利用者様がいるが、職員の巧みな声掛けで入浴へと誘っている。湯加減も本人に合わせて気持ちよく入浴してもらっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間、不眠となられることに対しては日中の過ごし方を工夫している。行動を制限せず、お話を聞いたりして傍に寄り添うようにしている。眠剤や安定剤に頼ることはしていない。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者様のできる能力を見定め、居室に目標を掲げている。ボードへの献立書き、くつろぎの時間の昔話の朗読、米どぎや盛り付け、買い物への同行など、手伝いのできる利用者様も固定化してきている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に同行される方に残存する能力を維持するために、何品かを買ってもらったり、レジで支払いをしてもらったりしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご家族から鍵を預かり、自宅への(独居だった方)帰宅やドライブ、帰宅願望のある方とはとことん付き合っ外に出ている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春・秋の遠足、季節に応じたドライブ。外食も月一度程度取り入れてみたい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の声が聞きたい時、逢いたい時は随時連絡をとっている。年賀状や暑中見舞いは利用者様の言葉を代筆して送っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会は時間制限など無くいつでも気軽に来ていただけるようお願いしている。お孫さんや友人の来訪は利用者様が一番良い笑顔になられる一時だ。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束の必要性が全く無い利用者様ばかりで、身体拘束ゼロを心がけている。拘束の必要性のある時はご家族の了解を得ている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関のドアを手動にしている。利用者様の居室に施錠することは無い。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者様自ら施錠をされている時は安全が確認されればそっとしておくが、所在確認には常に努め、遠目の見守りをするようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、洗剤、消毒液など鍵付の場所に保管をし、出し入れの都度施錠を必ずする。台所用品も(包丁、台所洗剤)使用後収納を徹底している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒については敷物・家具・配線の位置などの配慮をし、窒息・誤薬については食事時の声掛け、服薬の確認を必ずする。行方不明・火災などの防止のため緊急時対応マニュアルの徹底をはかっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員全員普通救命講習を終了しており、各医療機関とも緊急時の連絡網を作成し、連携を取れるようにしている。ノロウイルス対応については、毎月職員会議時に再確認の時間をとっている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回の避難・消火訓練の実施、緊急連絡網の徹底を図るために実践形式の訓練を実施している。消火器設置場所の確認非常口の確認を職員全員に毎月の会議で周知徹底をはかっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	体調の変化など随時ご家族に連絡をとっている。利用者様一人一人がかかえるリスクの違いを認識し、ご家族にも家族会などで十分な話し合いをするようにしている。利用者様本人の介護日誌を家族に開示している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段との違いに気づき(バイタル表・個別記録等)早めに対応するように心がけている。デイサービス看護職員に相談し、スタッフは、夜勤者と日勤者との引継ぎに時間を十分とって情報の共有に努める。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については誤薬、飲み忘れの確認をし変更があった場合、服薬後の症状の変化などの観察に心がける。	○	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	慢性の便秘症の人は対応をプランに組み込み、全体的には水分摂取・運動・食べ物等で予防に心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの徹底をし、義歯洗浄の支援をしている。自歯の人への歯磨き励行や歯科受診支援もしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の水分量は毎日記録し、量や栄養バランスについては個別に対応したり、家族への聞き取りをし参考にするこもある。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザは利用者様・職員全員予防注射を実施。来訪者には手指・靴底の消毒をお願いしている。ノロウイルス対応については、緊急対応キットを用意しすぐ利用できるようにしている。おしぼり、汚物はオスバン液で消毒・殺菌し、洗濯するようにしている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	必要な食材は日々買い物をし、新鮮な食材で対応している。地産地消に努め、地元の野菜市で”朝どり野菜”の購入をしている。まな板・布巾・おしぼり等は殺菌洗浄している。	
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>			
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは季節を感じ取れる工夫をしている。なだらかなスロープ・三面の花壇・放射状のステップが開放感のあるつくりとなっている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が集まるホールはもちろん、各居室のネームプレートにも季節に応じた飾りをつけたりし、音楽を流したりしている。トイレ等の清潔に心がけ、入浴時の脱衣場の室温に配慮を怠らない。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子、テーブルのほか和室・たまり(畳)があり、思い思いに利用されている。陽だまりに椅子を移動し日向ぼっこをされたり、カセットの傍で自分の好きな音楽を聞いて楽しめる人もいる。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使われていた家具・椅子・家族写真などを持ち込まれている。利用者様の動きに合わせたベットメイクをしたり、好きな人は居室のカセットで好みの音楽を聴かれている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室とホールの温度差があまりないように室温に配慮している。冬場は乾燥対策に、濡れタオルを居室にかけたり、1日1度時間を決め、居室の窓を開け換気をしている。	○	感染症流行期は居室の換気や濡れタオルも時間を決め、必ず実行するよう職員に周知徹底をしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の動きに応じ新しく手摺を設けたり、目の悪い利用者様の居室入り口や浴室の手摺に、目印となるテープを貼っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できること、できないことを見極め時間がかかっても出来ることはしていただくこととし、日々の動きの中で混乱しないよう、失敗に繋がる事への予防に心がけるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	広い庭の活用は多々あり、家庭菜園での野菜作り、ベランダでの日向ぼっこ・芝の上での散歩・お茶・食事をする事もある。四季折々の庭の変化(花や紅葉)を楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々の流れは利用者様が”もし今家庭で過ごされていたら”を思い自然な流れを意識した介護をしている。  
作業なども気分の乗らない時は強要せず、”手伝いしていただける？” ”出来そうだからやってみよう！”の声掛けで誘うようにしてメリハリをつけるように心がけている。  
地域の皆様からもやさしい声をかけていただける様になり、とてもうれしく思うこの頃です。  
今年の良い時期に庭に2本の桜の木を植えました。この春花をつけてくれるか楽しみにしています。